

〔芸術〕

(1) 改訂の基本的な考え方

芸術科で育成を目指す資質・能力が「生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」と規定されるとともに、教科の目標が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。また、このような資質・能力を育成するためには、生徒が「各科目による見方・考え方」を働かせることが必要であることが示された。

以下の点が今回の改訂の主な内容である。

- ア 目標の改善
- イ 内容構成の改善
- ウ 〔共通事項〕の新設
- エ 知的財産権に関する配慮事項の充実

(2) 教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

※「各科目による見方・考え方」とは

「各科目による見方・考え方」とは、各科目の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことである。各科目における見方・考え方は、学習の中だけで働くのではなく、生徒一人一人の生活や社会の中で活用されるものになることが重要である。

(3) 科目の構成

(○印は選択必修履修科目を表す。() 内数字は標準単位数を表す。)

現 行		改 訂	備 考
音楽Ⅰ	(2)	左に同じ	Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目を履修した後に、Ⅲを付した科目はⅡを付した科目を履修した後に履修させる。
音楽Ⅱ	(2)	左に同じ	
音楽Ⅲ	(2)	左に同じ	
美術Ⅰ	(2)	左に同じ	
美術Ⅱ	(2)	左に同じ	
美術Ⅲ	(2)	左に同じ	
工芸Ⅰ	(2)	左に同じ	
工芸Ⅱ	(2)	左に同じ	
工芸Ⅲ	(2)	左に同じ	
書道Ⅰ	(2)	左に同じ	
書道Ⅱ	(2)	左に同じ	
書道Ⅲ	(2)	左に同じ	

I 音楽

(1) 科目の目標（「音楽 I」）

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

※「音楽的な見方・考え方」とは

「音楽的な見方・考え方」とは、感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けることであると考えられる。

(2) 主な科目のねらいと内容等

科 目	ねらい・内容等
音楽 I (選択必修科目)	・音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す科目

II 美術

(1) 科目の目標（「美術 I」）

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

※「造形的な見方・考え方」とは

「造形的な見方・考え方」とは、美術の特質に応じた物事を捉える視点や考え方であり、表現及び鑑賞の活動を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことなどが考えられる。

(2) 主な科目のねらいと内容等

科 目	ねらい・内容等
美術 I (選択必修修科目)	・中学校美術科における学習を基礎にして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を目指す科目

Ⅲ 工芸

(1) 科目の目標（「工芸 I」）

工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

※「造形的な見方・考え方」とは

「造形的な見方・考え方」とは、工芸の特質に応じた物事を捉える視点や考え方であり、表現及び鑑賞の活動を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことなどが考えられる

(2) 主な科目のねらいと内容等

科 目	ねらい・内容等
工芸 I (選択必修修科目)	・中学校美術科における学習を基礎にして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を目指す科目

Ⅳ 書道

(1) 科目の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

※「書に関する見方・考え方」とは

「書に関する見方・考え方」とは、書の特質に即して物事を捉える視点や考え方をいい、感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉や、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすことである。

(2) 主な科目のねらいと内容等

科 目	ねらい・内容等
書道 I (選択必修科目)	・書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する科目

○ 教育課程編成上の留意点及び指導計画作成上の配慮事項等について

Q 改訂により新設された〔共通事項〕とは何か。

A 表現と鑑賞の学習に必要な資質・能力を各教科の特質に応じて示されたものである。

音楽	「思考力、判断力、表現力等」に関する能力と、「知識」に関する資質・能力として示されている
美術	造形的な視点を豊かにするために必要な知識として示されている。
工芸	造形的な視点を豊かにするために必要な知識として示されている。
書道	表現と鑑賞の学習に共通に必要な「知識」に関する資質・能力として示されている。

Q 専門教科「芸術」の教育課程編成上における留意点は何か。

A IIやIIIを付した科目についても、生徒が自己の興味・関心等に応じて選択履修できるよう配慮することが必要である。また、例えば、1年次にある芸術科目を履修した生徒が2年次に異なる芸術科目を履修したり、あるいは、同一学年に異なる複数の科目を並行履修したりするなど、生徒の希望を最大限生かすことができるように工夫することが必要である。

さらに、生徒、学校及び地域の実態、学科の特色等に応じ、芸術に関する学校設定科目を開設し、学校独自の特色ある教育を展開することも考えられる。

Q 指導計画を立てる上での留意点は何か。

A 指導と評価の計画を立てる上で、言語活動について十分に考慮する必要がある。

- ・音楽では「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっての配慮事項として示されている。
- ・美術では「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たって〔共通事項〕に示されている事項を視点に充実が図られるように示されている。
- ・工芸では「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たって〔共通事項〕に示されている事項を視点に充実が図られるように示されている。
- ・書道では表現領域と鑑賞領域において充実が図られるよう示されている。